

《令和3年度》 児童発達支援事業山形コロニー ういる天童 保護者アンケート&自己評価 集計結果表
【情報公開用】

児童発達支援事業山形コロニー ういる天童では、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検を実施しました。より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域のみなさまに安心して利用していただくことを目的としています。

なお、この自己評価表は厚生労働省が定める「児童発達支援ガイドライン」をもとに作成した「保護者向けアンケート」の回答結果、及び自事業所の自己チェックとなる「事業所向けアンケート」の意見等を踏まえ、「自己評価」としてまとめたものです。

チェック項目		保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○ 「のびのび活動できています」と意見あり	○	・一人ひとりの療育活動の目標や課題設定等に応じ、個別や小グループで活動しています。コロナ禍では密を避ける取り組みもしています。施設内にはホールや庭、教室等があり目的に応じた使用ができます。施設外にも、隣接する畑や公園があり様々な活動を提供しています。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	○ 「預かり療育の際に、1人1人を見てくれているのかが心配」との意見あり	▲	・保育士等の配置基準は各ユニット2名ずつですが、当事業所は基準の倍以上の職員を配置し、安心安全な支援体制を構築しています。 ・職員は、保育士9名、児童指導員6名、社会福祉士2名、精神保健福祉士1名など、国家資格等を持つ職員を配置しています。 ・今年度は、専門職としての意識向上を図ってきました。今後、より良いサポートができるよう、専門研修等を継続して取り組んでいきます。
	③ 事業所の空間や設備等は、子どもたちの活動に合わせた環境になっているか。また、環境には分かりやすい工夫やバリアフリー等の配慮がなされているか	○ 「余計な物がなく集中できる」との意見あり。	○	・当施設は、療育環境としての安心・安全と、利用者にとって分かりやすい環境を追求した『構造化された施設』です。活動中も視覚等に分かりやすい設定を検討・実践しています。また地域福祉拠点として、障害のある方や高齢の方等、どなたでもアクセスしやすいバリアフリー環境です。
	④ 生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか	○ 「いつもとてもきれい」「毎日清潔で安心です」等との意見あり。	○	・コロナ禍でも安心して活動できるよう、常時換気や定期消毒等をして安全な環境を維持管理しています。 ・感染症対策訓練や、対応マニュアルを作成し、有事の際には安全第一の対応ができるよう努めています。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	－	▲	・毎日、朝夕のミーティングで共有・振り返り等をしています。PDCAの実践を日々行う中で、より具体的な内容で進め、改善にまで繋げていけるよう確認しています。 ・職員各自が、一人ひとりのお子さんの目標等に対して、どのように働き、支援貢献できるかを常に考え、実践できる組織づくりを目指しています。
	⑥ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	－	○	・保護者の意見は、私達だけでは気付きづらいことや、より多くの学びを実践することに繋がっています。今後も、具体的な対処方法や改善策等を模索し、より良い事業所づくりに努めています。
	⑦ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	－	○	・このアンケート結果をホームページで公表し、周知することで情報公開を行っています。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、調査結果を業務改善につなげているか	－	○	・法人全体で適切な事業所運営のために内部監査を実施し、不足点等の指摘を耳にし、改善を行っています。 ・今年度は、去る12月に山形県の実地指導を受けましたが、大きな改善等の指摘事項はなく、コンプライアンスを果たし、適切な運営管理が実施されていることを認められました。
	⑨ 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	－	○	・法人全体、または事業所研修等で、目的に沿った職員研修を実施し、専門性の向上を図っています。 ・今年度もZOOMを主体に、継続して人権や虐待等の研修を内部だけでなく外部の研修も積極的に受けています。 ・研修で学んだことを活動に還元できるよう、全職員で研鑽を重ねています。
	10 子どもと保護者のニーズや課題等を捉えた児童発達支援計画が作成されているか	○ 「子どもの得意や苦手を質問票等を用いて確認してはどうか」との意見あり。	○	・母子活動等で家庭での状況を保護者と共有するよう努めています。同時に成長の段階を客観的に確認し、「達成できる目標」を意識した計画内容としています。保護者と直に利用児童等の成長を共に喜んだり、迷いや不安な思いを知り、寄り添い、話し合い、より具体的な実践が伴っていくよう今後も努めています。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	－	▲	遠城寺式発達検査表等を用い、客観的評価で発達課題のエビデンスを確認しています。この情報をより一層活動に反映し、実践へと繋いでいくよう運営体制の強化を進めていきたいと考えております。

	(12) 子どもの支援に必要な「発達支援」「家族支援」「地域支援」の項目が、児童発達支援計画で設定され、支援が提供されているか	○ 「関係機関と連絡等を取って頂いています」との意見あり。	○	・当事業所では、これらの項目が全児童の個別支援計画にめぐなく位置づけられています。 ・各項目の進捗確認や活動内容等を見直し、楽しく遊んだり、挑戦したりする中での関わり等をより深めていけるよう確認をしています。
	(13) 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	－	▲	・療育活動等の設定は、全て計画に沿ったもので進めています。 ・計画に位置付けられた発達課題が、日常の療育活動の中で確認を重ねたり、達成から定着を目指しています。子どもの状況に応じた支援も、適切に行われているか日々チェックし次への実践へ繋いでいけるよう確認しています。
	(14) 活動プログラムの立案をチームで行っているか	－	▲	・個別支援計画に基づく活動プログラムの立案→検討→決定は、毎日のミーティング等で全チームスタッフの意見と客観的な指標も使用し検討できるよう取組んでいます。今日の活動から見えたことを次回に活かし、具体的な機会の提供の実践に努めています。
適切な支援の提供	(15) 活動プログラムは、個々の計画等に応じた工夫がなされているか	○ 「質問票等があればより個々に応じた計画ができると思う」との意見あり。	▲	・活動プログラムは個別支援計画に沿い、活動を設定しています。グループ活動であっても、一人ひとりの状況に応じて課題設定等の共有・調整を行うよう努めています。 「できた」「やってみたい」等の子ども自身の気持ちを引き出していくよう、達成可能な課題設定や活動の設定を重視しています。 ・計画に沿って、母子活動の展開や個別の対応を環境を整えて進められるようにしています。
	(16) 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	－	▲	・計画時において個々の成長や課題を見て個別・集団の活動設定を検討しています。主となる活動だけでなく、日常の関わりから個別や集団を個々に応じて意識的に関わるようになっています。
	(17) 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	－	○	・職員間で検討し作成した、日ごとの『支援管理表』を使用しています。確認する時間をもち、支援者の1日の動きや支援内容、役割等を具体的に伝達し合えるよう進めています。 ・作成方法等を都度検討・修正し、限られた時間内で内容等を掘めるよう分かりやすく作成するよう努めています。
	(18) 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	－	▲	・支援終了後に毎日振り返りを行っています。前回の検討内容を実践してどのように改善するかの具体性と一貫性を確認しながら小グループと全体とで意見交換等を話し合い記録しています。 ・限られた時間内での意見交換や共有をし、方針まで示せるよう日々改善していますが、全体周知の在り方等を工夫し全体で進めているところです。
	(19) 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	－	▲	・職員には、支援状況等が正しく読み取れるよう記録技術や進捗が分かる内容を記載するよう確認し、記載後の内容についても再確認をしています。 ・今後も記録する内容等について、成長や変化、活動の進捗等を検証ができるよう職員全体にも常に周知し改善を目指していきます。
	(20) 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	－	▲	・日常の母子活動中の気付き・確認できたことや、面談の場を設定する等して、保護者等から話を伺う機会を大切にしたいと考えています。 ・療育だけでなく、通園先や関係機関等と適時連携し、環境の違い等を含めた幅広い情報を共有した上で、モニタリングできるよう努めています。
	(21) 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	－	▲	・主に児童発達支援管理責任者が参加しています。 ・保育士等も、外部との連絡・連携を行うよう努めてきました。コロナ禍で会議等への参加者も限定的になりやすいですが、療育の立場からの発信と、関係機関の状況等を知り共に進めていけるよう機会をもっていきたいと考えています。
	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	－	○	・市町村の母子保健担当者や発達相談室等と日頃から連絡や相談、訪問を行うよう努め、お子さんの状況を具体的に見ていただいている。 ・今後も、療育での状況等を継続して伝え、いつでも相談できる関係構築を目指して続けていきたいと思います。
	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、地域の保健や医療、子どもの主治医、福祉や教育等と連携した支援や連絡を行う体制を整えているか	－	▲	・当事業所は、医療的ケアを要する児童を対象とした事業設定ではないため、体制や設備を整備していません。 ・医療的ケアが必要な児童の受入の現状を把握するよう努めると同時に、ケアが必要ではない場合でも、個々人に応じてかかりつけ医等と連携して支援を行っています。

関係機関や保護者との連携	㉔ 移行支援として、保育所や幼稚園等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	—	▲	・保育園や幼稚園を併用する児童が多いので、環境の変化や時期に応じる等して園に訪問したり、連絡をとっています。 ・それぞれの場所での課題等を共有したり、園と療育活動お互いの環境等を知る機会としても連携に努めています。
	㉕ 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	—	▲	・就学を見据えた療育活動は、当事業所が最も重要視している考え方です。対象となる児童は、「就学移行プログラム」の通して、具体的な就学準備を進められるよう機会を提供し、保護者とも共有するよう努めています。 ・小学校等への移行連携は一般的には園が主体となりますが、必要に応じて教育委員会等の関係機関や保護者と活動状況について共有し、就学に向けた支援連携に努めています。
	㉖ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	—	▲	・地域の児童発達支援センターから助言を受けることはありません。 ・地域で行われる各種研修には参加しています。 ・コロナ禍のため、開設当初から指導を受けている専門医からの研修等は中止しました。 ・当事業所も、地域や関係機関に対して、早期的な関わりの重要性や母子療育の提案等について継続して努めています。
	㉗ 地域の方々との交流や、地域の中で活動する機会があるか	○	▲	・コロナ禍のため、地域交流会「天童コロニー祭り」の開催を中止しました。 ・地域の子育てサロンも、当事業所の担当日が中止となりました。 ・近隣の短大の授業の一環として、当事業所利用児の支援を学生が考えて提供する機会を始めて行いました。 ・当法人の主催で、障害者の人権啓蒙研修会「星に語りて」の映画上映会を開催。感染症対策を行い地域住民の方等にも多数参加いただきました。 ・当事業所も地域資源の1つであることを再確認し、挨拶等の日頃からの意識を重要視しています。また、コロナ禍が収束したら、地域交流事業を実施していきたいと考えています。
	㉘ （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	—	▲	・天童市自立支援協議会には、当事業所の施設長が委員の委嘱を受け参画しています。また、相談支援部会も定期的に開催され、私どもの相談員が参画しています。 ・地域内で児童関連の事業所連絡会で情報共有等をする機会もあり参加しています。 ・日々の事業運営を通して、地域での課題を知り、確認し、解決のために動ける事業所を目指しています。今後も、地域の事業所を始め、関係機関との連携を継続できるよう努めます。
	㉙ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	○	▲	・「連絡帳」の活用や、母子活動時、お迎えの時等に保護者に活動状況を伝達するよう取り組んでいます。 ・限られた時間やタイミングの中ではありますが、1日の活動や関わり等についてできるだけ共有できるよう工夫しておりますが、今後より一層、成長に応じた関わりや家庭での子育てに役立つ情報共有になるようさらに工夫していくと考えています。
	㉚ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	—	▲	・日頃の母子活動等の中で、現在の成長状況を共有しながら、関わり方や褒めるポイント等を個々に合わせて進めています。 ・私たちもペアレントトレーニングを適切に学び、子どもの行動等を確認して関わりたいと思っています。また日頃から見本となるよう努めています。
	㉛ 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○	▲	・利用契約の際に説明しています。運営規定、重要事項説明書等に変更があれば、随時説明し、同意をいただいています。今年度は制度改正等もあり、現在の状況に照らし合わせながら、一人ひとりが理解を深められる取り組みを継続しています。
	㉜ 保護者に対して、面談・相談・助言等の支援が行われているか	○	○	・成長の段階に応じた相談を行っています。保護者の困り感や家庭内での様子、就園や就学のこと等、課題から希望に寄り添いながらも、当方としてどのように取り組んでいくか等ができるだけ具体的に示しながら話合いを行っています。 ・日頃からの変化に気付き、私たちから声をかけるよう努めております。
	㉝ 児童・保護者が一同に介する行事等の開催等により、保護者同士の連携・関係づくり等が支援されているか	○	○	・母子通所の活動は、保護者同士が交流できる機会に繋がっています。 ・土曜開所日では、親子行事や保護者同士の交流・研修会等を提供してきました。今後も継続できるように活動企画等を検討していきます。
	㉞ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	・苦情受付体制は契約時に説明し、玄関内の掲示板への掲示と意見箱を設置しています。 ・天童での第三者委員直接受付は、コロナ禍のため中止しました。 ・利用者からのご意見を、より良い事業運営に活かしていくよう分かりやすい説明等で示していきます。

	(35) 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信しているか	○	○	・主にホームページにて活動のトピックスをブログにて紹介しています。連絡網の使用も継続し、事業所からのお知らせ等が周知されるよう取り組んでいます。 ・開所内容だけでなく、日々の活動や遊びの様子等を紹介し、ういる天童の活動を広く知っていただけるツールとして活用をしていきたいと考えています。
	(36) 個人情報に十分注意しているか	○	○	・個人情報は、保護規定に沿った管理を継続しています。より安全な管理体制を構築できるよう、情報の取扱い等について見直し、全職員で確認を進め改善を進めています。
	(37) 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○ 「まだ話せない子であるため活動状況をより丁寧に聞きたい」との意見あり。	○	・本児にとっての分かりやすさを念頭に置き、伝達方法を検討しています。必要に応じて言葉だけでなく、ツール等を使用し、お子さんと繋がるための手立てをもって支援しています。 ・これまでの関わりや、支援時の状況を確認し、手段に偏り過ぎず「繋がる目的」を重ねていけるよう、検証と実践を繰返しています。 ・お子さんの活動状況に応じた情報を伝達するよう努めていますが丁寧に伝えきれず至らないこともあります。活動への不安点等を確認しながら、適切な伝達ができるよう確認を行います。
	(38) 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	-	▲	・今年度もコロナ禍の影響で大規模な交流行事も中止となりました。その中でも、感染症対策の下で行った映画上映は開催することができ、地域の方々に参加していただきました ・私たちの活動を地域に知っていただけるようこれからも避難訓練への参加呼びかけや、普段の挨拶等を継続して行っています。
非常時等の対応	(39) 緊急時対応や、防犯、感染症等への対応についての手引きを策定し、保護者に周知されているか	○	○	・緊急時や感染症等の対応マニュアルを整備し、都度確認や必要に応じて修正を検討しています。コロナ禍での対応も継続し、定期等での消毒や、手洗い、マスク、実測体温、生活行動等の確認も皆さんのご協力もあり定着が見られています。事態が落ち着くまでは密を避けた活動で、安全安心な環境の維持に努めます。 ・保護者へのマニュアル配布はしていませんが、感染症に対するリスク管理のお願いを連絡網等で周知するようにしています。
	(40) 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	○	○	・法定訓練として、年2回以上の避難訓練を実施しています。毎回1週間訓練週間をとり、全利用児が参加できるよう設定しています。保護者へも水消火器体験を実施しています。 ・感染症対応についても、日々の動向を注視し、現状に合った対策を都度周知し、安心・安全に解説を継続できるよう進めたいと考えています。
	(41) 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	-	○	・今年度の県主催の研修にも職員が参加予定です。 ・年1回以上は、全職員に法人内虐待防止研修の機会を持ち続けています。また、各部署の定例会議等でも虐待防止のための研修教育に努めています。
	(42) どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	-	▲	・これまで、強度行動障害児に対する支援を要するケースには、具体的な対応等を計画に入れ、保護者に説明し、同意を取って実施しています。 ・やむを得ず対応を要する時は、必要最小限の対応とし、支援内容を記録し、都度保護者に説明する体制を整えています。 ・職員が上記の内容を正しく理解した上で、組織的に一貫した支援や適切な環境の調整等の確認を続け、徹底したリスク管理に努めていきたいと思います。
	(43) 食物アレルギーのある子どもについて、医師指示書に基づく対応がされているか	-	○	・食物アレルギーの有無等については、利用開始時に必ず確認しています。対象児は、医師の診断書の提出をいただき、提供する給食の成分表の3重チェック（保護者、事業所、給食業者）を行った上で提供しています。また、お子さんの食事の変化も確認し、おやつ等の提供時も、個々の情報を把握したリスク管理を行っています。
	(44) ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	-	▲	・ヒヤリハット等は、職員間で環境設定や人員配置等を確認して、次回からの活動調整を具体的に決めています。リスク管理として安全な環境・職員の配置等を都度検討し対策をしていますが、様々な状況に応じて能動的に管理ができるよう継続して行う必要があります。

満足度	④⑤ 子どもは通所を楽しみにしているか	○ 「コロナ禍もあり、普段より外活動が少なくなった気がする」「もっと戸外活動を取り入れてくれると嬉しい」「母子通所のみになり楽しく通えている」等との意見あり	▲	<ul style="list-style-type: none"> ういる天童の活動形態は母子通所、一時預かりを単独や繋げて利用することができます。お子さんの段階に合わせた活動を開拓できるよう、「楽しい」と思う遊びを様々な角度から見つけたり、思いの共有等を繰り返し重ねて、関係を構築したいと思っています。 お子さんの楽しい遊びを母子活動で共有し、家庭の子育てへも繋げることが私たちの役割でもあります。そして他者とも繋がる機会をたくさんもてるよう、それぞれの楽しい遊びを通して進めていけたらと思います。 ・母子活動をする意味、療育活動への参加の思いを知り、私たちに求められているものを再確認し、活動をしたいと思います。
	④⑥ 事業所の支援に満足しているか	○ 「昨年からの成長がみてとれている」「母子通所、土曜開所、楽しみに通所している」等との意見あり	▲	<ul style="list-style-type: none"> ういる天童では当初より、母子療育を通して「子育てサポート」をしていきたいと思い活動しています。未就学期の療育活動が、母子で学びあえる機会となり、家庭でも楽しみながら子育てをしていくよう関わりたいと思っています。私たちもお子さんに「楽しい！」と思うことを教わっています。その思いで繋がりあえるよう、日々全職員で検討し進めていくことを継続したいとお思います。

職員の配置状況（令和4年2月10日現在）

施設長：1名、児童発達管理責任者：2名（施設長と兼務1、常勤専従1）、保育士：9名、児童指導員：6名

職員の資格 等（令和4年2月10日現在）

社会福祉士：3名、精神保健福祉士：2名、介護福祉士：4名、保育士：9名、児童指導員：6名、
強度行動障害支援者研修修了：5名、SST社会生活技能訓練：1名、リズム運動指導者研修修了者：2名
職場適応援助者（ジョブコーチ）：1名 など